

保護者支援

NPO法人地域生活支援ネットワークサロン

大木裕介

自己紹介 関東から釧路編

- 人間関係で14歳から精神科に掛かって薬だけは飲んでいただけ、回復の気配もなく、惰性と依存で通ってはいた。
- 20代後半、無気力などからバイトに行けなくなっているところ、自分みたいなのが釧路で生活している（実際は違うけど当時自分はそう思い込んでいた）と知り、縁と衝動で関東から釧路に越して、ネットワークサロンというところに繋がった。
- 素性がわからない自分に住居を用意したり、仕事の紹介や働き方のパターンを試してみてくれたり、なんか妙なところだ。
- その流れで発達検査を受ける機会があり、ASD（ついでにADHD）と診断を受ける。たぶん最大の転機。

自己紹介 釧路での生活編

- 自分の状態に名前がつくことで、今までの違和感や困り感の理由や原因に説明がついたことが嬉しかった。およそのスペックを把握したら自分自身へのハードル設定が見直されて、とにかく気楽になれた。
- 検査と同時期からGH、自立援助ホーム、放デイなどにパートやA型として勤務したり、一応の当事者としてたまに研修のサンプルをしたりしている。
- なので保護者支援への専門性？はないけれど、声が掛かって断る理由もないので今日はよろしくお願いします。
- こだわりのない事柄には柔軟な私なのだ。

今の自分の保護者支援

- 前提として、自分は人と関わる時にスイッチを入れる必要がある。
(と自分では思っている)
- 保護者だからとあえて入れるスイッチはない。強いて言えば可不可
ない対応をと思うこともあるかもしれないけれど、自分における無
難が相手（保護者）にとっても無難なのかは基本的にだいぶ怪しい
ので、ならばと関りそのものを回避しがち。
- 例えば自分よりも保護者対応（雑談とか必要事項の伝達とか）が得
意そうな人がいる場面であれば、その人に任せて自分は他のことを
する、みたいな。
- 直の保護者対応を軽視したり面倒だから避けるみたいなことでなく、
自分であれば裏で保護者や当事者のアセスメントをする方がよほど
貢献できると思うので、効率とか能力バランスの問題だと思ってい
て、チーム編成や状況による。

今の自分の保護者支援②

- 保護者は当事者本人ではない、とは意識している。
- 自分が子どもの頃、保護者が想像あるいは理想とする自分の像が全くの見当違いばかりでギャップに困ることが多かった。なので保護者の意向みたいな感情や期待が混じりそうなものは、当事者本人と関わりとは別に置いておくようにしている。
- 同じく子どもの頃、目の前で自分の情報がやり取りされていたり、幼稚園などで過ごしていた様子を勝手に話されたりすることが嫌だったので、当事者のタイプによってはここも気にしておく。（あ、これ保護者支援じゃない）
- 保護者と当事者、ついでに支援者も、作用はしあうけど個々で存在していて、それぞれが各々の完成に向かえるのがいいよね、と思う。

今の自分の保護者支援③

- 自分は保護者支援の経験はほぼないけれど、それなりの意味や理由をもって大事なことだとは予想している。
- だいたいの子どもは親（保護者）の影響下にあるわけで、親の不安やストレスを減らす効果がありそうな支援は、子ども（当事者）にとってもきっとプラスだ。人は機嫌のいい方がいい。
- 障がいがあったり1人目の子どもだったりの親は、たぶんさらに結構不安で、わけわからないときも多いと思うので、話を聞いただけとか些細な情報提供でも意味があるかもしれない。大変な状況の人ほど周りに近い立場の人は少ないだろうし、吐き出したり理解の得られる場面は限られていると思う。
- もっと具体的な方法は今はまだわかりません。すみません。

昔の自分と保護者支援

- 自分はたぶん子どもの頃からクセのある人間だけど、その保護者たちは何の支援につながらず今に至った。もしもあのとき〇〇があれば、みたいなことをぼんやり思わなくもない。
- 母の気持ちを吐き出す先。(ASD気質の)父が納得できる説明。そういう保護者たちが知り合える場所。子どもの傾向別のかかわり方をわかりやすく、または詳しく知る方法。子どもの生まれつきの仕組みを悲観したりせずに済む感覚。場合によっては保護者が子どもだったり保護者足りない(特性や病状、精神的にとか)かもしれないので、そんなときの受け皿。などなど。
- でも結局個々人の資質に寄るところが大きいと思うので、どうしていくのがいいのでしょうか。